

猿喰新田潮抜き穴

—福岡県北九州市—

中 島 正 憲

1. はじめに

被写体は、周防灘に面した福岡県北九州市門司区猿喰（さるはみ）にある「猿喰新田潮抜き穴」という。猿喰という地名は、その昔、大猿が作物を食い荒らしたため射殺したところ、その祟りがあったため、祠を建てて霊を慰めたとの話が伝えられ、それが由来となっている。

2. プロフィール

(1) 築造年 江戸時代に、湾入していた猿喰海岸を、長さ約 430 m の堤防で締め切る干拓工事が行われた。工事期間は、1757（宝暦 7）年から 1759（宝暦 9）年にわたる。軟弱地盤のため、締切り堤防の築造は難工事であった。

潮抜き穴は、堤防の両端に 2 基ずつ作られた。現在は東側の 2 基のみが残り、当時の姿をそのまま確認できる。直近に近代的な樋門が整備されているので、現在は潮抜き穴として機能はしていない。

当時の土木技術を示す遺構として、2003 年 3 月に北九州市指定文化財（史跡）に認定された。

(2) 構造 潮抜き穴は、海水を新田内に入り込ませず、また、塩分の高い排水を海へ流すための水門機構である（写真-1, 2）。潮抜き穴の樋管は、堤防下の岩盤部をくり貫いて造られ、長さが三十数 m ある。

表紙写真の手前が「唐樋門」、奥が「南蛮樋門」と呼ばれている。唐樋門は、海の干満差を利用して、締切り板が自動的に開閉する構造であり、一方の南蛮樋門は、人力でハンドルを回すことによって、連結軸が扉を上下に開閉する機構となっている（写真-3, 4）。

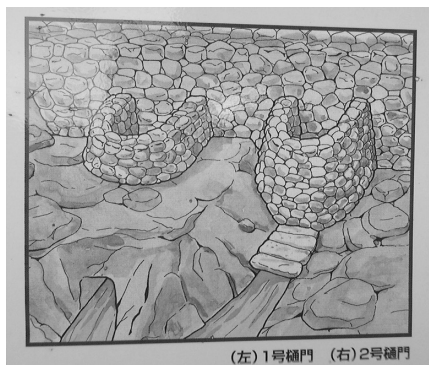


写真-1 左が唐樋門、右が南蛮樋門（現地の説明板より）

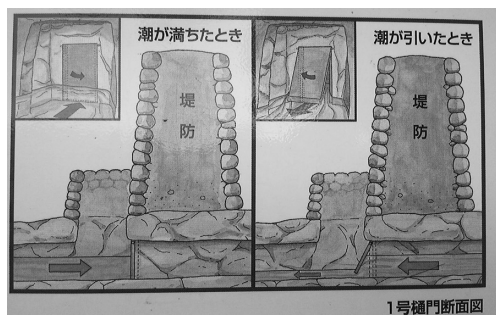


写真-2 唐樋門の機構説明図（現地の説明板より）

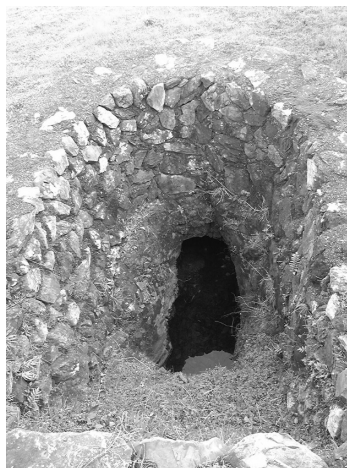


写真-3 唐樋門



写真-4 南蛮樋門

(3) 人物 「猿喰新田」は、門司の大里（だいら）村の庄屋であった石原宗祐（いしはらそうゆう）が、「享保の大飢饉」（1731～32年）で大量の餓死者が出たことを機に、庄屋の職を辞して私財を投じ、この猿喰海岸約33haを干拓し新田開発を行ったものである（写真-5）。彼はその後、小倉藩から、領内最大規模となる曾根新田（小倉南区）約85haの開発を命ぜられ成功させている。



写真-5 石原宗祐を称える碑

3. おわりに

猿喰新田潮抜き穴は、地域の歴史を学ぶ教科書に載るほど、歴史深く、水門の機構が珍しい文化遺産である。

毎年9月には、高校生、地域住民、地元企業などが参加し、除草・枝打ち・ゴミ拾いなど、猿喰新田の樋門へ通じる道路から、樋門周辺までの一連の場所（表紙写真、写真-6, 7）を清掃作業している。

ある施設がその役割を果たせなくなったとき、求められなくなったとき、その施設は寿命を迎える。この樋門は現在、使われていない施設となっているが、往時の役割を偲ばせてくれるモニュメントとして、これからも生きていくだろう。



写真-6 樋門の上流側

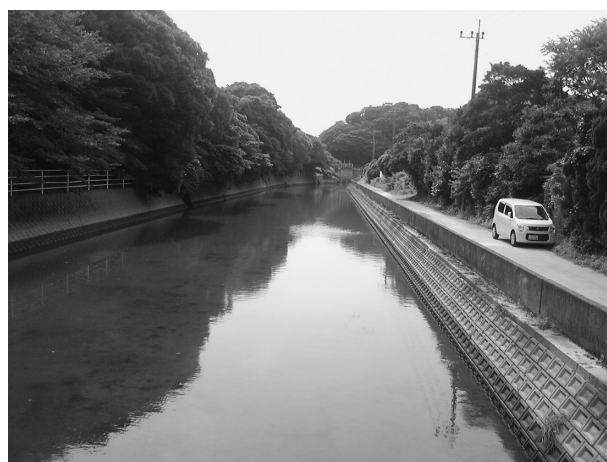


写真-7 潮溜まり（遊水池）（左側が堤防、右側が干拓地、奥に樋門（写真-6）がある）

参 考 文 献

- 1) NPO グラウンドワーク福岡ホームページ：<http://www.h3.dion.ne.jp/~gw-fuku/index.html>
- 2) 北九州市役所ホームページ：<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/>
- 3) 田郷利雄：石原宗祐・僧清虚・岩松助左衛門（ふくおか人物誌2），西日本新聞社（1994）